

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	商品券	120,000	他店商品券	100,000
			現金	20,000
2	保険料	200,000	当座預金	340,000
	資本金	140,000		
3	売上	132,000	売掛金	132,000
4	給料	3,000,000	従業員貸付金	800,000
			受取利息	10,000
			当座預金	2,190,000
5	仕入	300,000	受取手形	150,000
			当座預金	100,000
			当座借越	50,000

・解説

1. 商品券の精算に関する問題です。分かりやすく言いますと、「**当店が保有している他店商品券 100,000 円**」というのは、100,000 円の現金と交換できる債権なのに対し、「**当店発行の商品券 120,000 円**」というのは、120,000 円の現金と交換しなければいけない債務となります。

商品券を精算する場合は、商品券 100,000 円の債権と同額の債務を相殺し、残額について現金などをやり取りすることになります。本問では 100,000 円の債権と 120,000 円の債務が対象となっていますから、足りない 20,000 円分の債権について現金で決済することになります。

分かりづらい場合はそれぞれ別に仕訳を切ってみるといいかもしれません。まず当店が保有している他店商品券を現金に交換してもらったと仮定して仕訳を切ります。

(借) 現金 100,000 / (貸) 他店商品券 100,000

次に当店発行の商品券を現金に交換したと仮定して仕訳を切ります。

(借) 商品券 120,000 / (貸) 現金 120,000

最後に2つの仕訳を合算すると、解答の仕訳になりますのでご確認ください。時間は多少かかりますが、分かりにくい場合はこちらのほうが確実です。

商品券に関する問題は、第103回の間4や第104回の間3、第114回の間1、第118回の間5、第120回の間2、第124回の間1でも出題されていますが、本問（商品券の精算）と上記のいずれかの問題（商品券の授受）が解ければ、簿記3級の商品券に関しては十分だと思います。

2. 資本の引き出しに関する問題です。本問ではまず【会社が負担すべき支出】と【事業主が負担すべき支出】を分けていきます。

■店主の生命保険料 90,000 円・店舗兼住居用の建物の火災保険料 250,000 円

- ・店主の生命保険料 90,000 円は全額**事業主が負担すべき支出**
- ・火災保険料 250,000 円うち 50,000 円（20%）は**事業主が負担すべき支出**
- ・火災保険料 250,000 円うち 200,000 円（80%）は**会社が負担すべき支出**

以上より、会社が負担すべき支出が 200,000 円、事業主が負担すべき支出が 140,000 円となりますが、事業主が負担すべき支出を会社が肩代わりして支払った場合、**資本の引き出しとして処理**することになります。なお、解答では資本金勘定を使って処理していますが、特に指示がない場合は引出金勘定でも正解となります。

引出金勘定で処理する場合と、資本金勘定で処理する場合の両者の違いは、資本金勘定を使って**直接的に減らす**か、引出金勘定を使って**間接的に減らす**かという点です。間接的に減らした場合は、決算期末において、引出金勘定と資本金勘定を相殺する仕訳が必要になります。

■引出金勘定を使って処理する場合

☆支払時

（借）引出金 140,000 / （貸）当座預金 140,000

☆期末時

（借）資本金 140,000 / （貸）引出金 140,000

■資本金勘定を使って処理する場合

☆支払時

（借）資本金 140,000 / （貸）当座預金 140,000

☆期末時

仕訳なし

資本金・引出金に関する問題は第102回の間3や第106回の間4、第107回の間2、第111回の間3、第117回の間5、第122回の間1でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 売上戻り・売上値引に関する問題です。この問題もいつものように分けて考えてみましょう。

まず問題文の「6 ケースに汚損があったため、1 ケース当たり 2,000 円の値引を承諾」という売上値引の部分です。掛販売したものを売上値引する場合は、**販売時の逆仕訳**を行うことになります。

(借) 売上 12,000 / (貸) 売掛金 12,000

次に問題文の「10 ケースについては品違いのため返品されてきた」という売上戻りの部分です。売上戻りに関しても売上値引と同様に、販売時の逆仕訳を行うことになります。

(借) 売上 120,000 / (貸) 売掛金 120,000

なお、本問は問題文で与えられている勘定科目の中に「売上値引」勘定や「売上戻り」勘定がありませんので、借方に売上勘定を持ってくることとなりますが、このなお書きが無い場合は以下のような仕訳も正解となりますので併せてご確認ください。

(借) 売上値引 12,000 / (貸) 売掛金 132,000

(借) 売上戻り 120,000

さらに、ちょっと細かいかもしれませんが・・・上記の仕訳を期中に切った場合は、期末において売上勘定に振り替える仕訳が必要となります。

(借) 売上 132,000 / (貸) 売上値引 12,000

(貸) 売上戻り 120,000

なお、売上値引に関する問題は、第100回の間1でも出題されていますので、併せてご確認ください。

4. 給料の支払に関する問題です。このような問題は、貸付金の返済に関する仕訳と当座預金で支払った仕訳とを区分した上で、まず貸付金の貸し出し時にどのような仕訳を切ったか考えると分かりやすいです。

☆貸付時に切った仕訳

(借) 従業員貸付金 800,000 / (貸) 現金など 800,000

上記の仕訳を踏まえたうえで、「当該貸付金の返済を受け、それに係る利息を受け取ったが、これをそのまま給料の支払いに充てた」という仕訳を切ります。ここでは分かりやすくするために「現金など」勘定を使っていますが、実際に現金のやりとりは行われていませんので、解答欄に書かないように注意してください。あくまでも説明の便宜上で使っただけです。

★貸付金の返済に関する仕訳・・・①

~~(借) 現金など 810,000 / (貸) 従業員貸付金 800,000~~
(貸) 受取利息 10,000
(借) 給料 810,000 / ~~(貸) 現金など 810,000~~

残額については「当座預金から振り込んだ」と問題文にありますから、単純に給料を当座預金から支払ったという仕訳を切ります。これは簡単なので問題ないと思います。

★給料に関する仕訳・・・②

(借) 給料 2,190,000 / (貸) 当座預金 2,190,000

上記の①②の仕訳をまとめると、解答の仕訳になります。

5. 仕入取引に関する問題です。まず当座関係の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う2勘定制】と【当座勘定のみを使う1勘定制】の2つが考えられますが、この分野は日商簿記検定3級の頻出論点ですので、どちらも必ず押さえるようにしてください。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う2勘定制の解答手順

当座を増加させるような取引（売上など）の場合は、まず当座借越勘定があるかチェックし、あればそれを相殺した上で残りを当座預金勘定に計上します。当座借越勘定がない場合は、全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（仕入など）の場合は、まず当座預金勘定があるかチェックし、あればそれを相殺した上で残りを当座借越勘定に計上します。当座預金勘定がない場合は、全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

■当座勘定のみを使う 1 勘定制の解答手順

当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って処理します。機械的に処理するだけですので 2 勘定制よりも簡単です。

ちなみに・・・貸借対照表での表示に関してですが、当座勘定が借方残である場合は**当座預金勘定**、当座勘定が貸方残である場合は**短期借入金勘定**を使って表示することになります。借方残の場合は特に問題ないと思いますが、貸方残の場合は少し気をつけてください。

なお、2 勘定制によるか 1 勘定制によるかは、必ずしも問題文に明示されるものではなく、本試験では使用できる勘定群から判断することもありますので、実際に問題を解く際は勘定群をチェックする癖を付けるようにしてください。

次に、為替手形の裏書きに関する部分ですが、問題文に「代金のうち 150,000 円については酒井商店振り出し、榊原商店あて（引受済み）の為替手形を裏書譲渡」とありますから、本店が所有している為替手形を本多商店に裏書譲渡する仕訳を切ることになります。

なお、他店振出の為替手形は受取時に受取手形として処理していますので、これを裏書譲渡する場合は受取手形の減少を認識することになります。

☆参考・為替手形受取時の仕訳

（借）受取手形 150,000 / （貸）売上など 150,000